|  |  |
| --- | --- |
| 著者 | 田中耕市 |
| タイトル | 中山間地域における公共交通の課題と展望 |
| 出典 | 経済地理学年報　第55巻 |
| 要約・感想　1960年代に始まった日本のモータリゼーションは、国民の生活スタイルを一変させた。利用者の利便性を飛躍的に向上させた一方で、中山間地域に及ぼした影響は極めて深刻である。産業構造の転換を背景にした生産年齢層の人口流出、それに伴う少子高齢化が苦境に拍車をかけている。日本の中山間地域における公共交通が抱える問題を明らかにして、今後の公共交通の可能性を考察する。　多くの中山間地域の住民は、利用可能な公共交通機関が少ない。中山間地域において、高齢者の自動車免許の保有率が高く、自動車を運転し続ける高齢者も多い。それは、自動車が運転できなければ、買い物や診察などの健康的な日常の維持に支障をきたすためである。しかし、高齢における自動車の運転は、交通事故に遭遇する確率を高めることとなる。このことからも、中山間地域には、自家用自動車に依存しないシビルミニマムとしての公共交通機関が検討されるべきである。つぎに、乗合バス交通の規制緩和と補助制度の変更が中山間地域に及ばした影響について考える。規制緩和と補助制度の変更によって、不採算路線が多い地方において、バス事業者の撤退が進むことに繋がった。特に、利用客数が少ないうえに、ほかの代替交通手段がない中山間地域では、死活問題ととらえられた。これらの問題を検討しつつ、住民のニーズを綿密に調査し、また市町村の地域特性を熟知した交通体系が求められると考えられている。代替交通を成功させるためには、自治体側からの一方的なアプローチだけではなく、それを利用する地域住民側からの積極的な参画が欠かせないのである。　少子高齢化が問題視されている地域では、交通機関に関する問題も深刻化しているのだと改めて気づかされた。最後のまとめとして、「地域住民側からの積極的な参画が欠かせない」と書かれていた。これは、わたしたちの取り組んでいる先行研究でもあるように“地域愛着”がなければ、積極的な参画も行われず、様々な問題は深刻化していく一方なのだと感じた。過疎地域における問題解決法は、技術発展に伴った新たな解決法もあるが、最も重要なのは、地域住民が協力行動を起こせるようにどれだけ地域愛着を向上させるかということであるように感じた。この問題を適切な政策によって解決の糸口につなげることが、私たちの役目なのだと強く感じた。 |
| 記入日 | 2020年10月26日 | 記入者 | 武田　侑佳 |